

## 「市民の視点で武庫川を科学する」 —武庫川市民学会紹介・第4期活動を中心に—

武庫川市民学会

### 武庫川市民学会とは

当学会は昨年度より共生のひろば展に出展しています。当学会設立の経緯や目的については「共生のひろば」11号に記しましたが、ここでは簡単に再掲しておきます。

武庫川は、篠山市の丹波山地を源とし兵庫県南東部を流れ大阪湾に流入する本川流路長66kmの二級河川です。この川の中流部武庫川溪谷に、1979年頃より治水事業の一環として県営治水ダム（計画初期は多目的ダム）の建設が計画され、市民による反対運動が起きました。その後、改正河川法（1997）に基づき市民の意見を反映させる武庫川流域委員会（2004）が県によって設置され、行政、専門家、市民の間で6年半にわたり議論が行われました。その結果、ダムに頼らない総合治水の方向性が流域委員会により「提言書」（2006）にまとめられ、県もこれを尊重する方向へと方針を転換しました。

「提言書」の中に、市民の意見を取り入れるだけではなく流域市民自身が参画し連携することなくして真の川づくり・まちづくりはできない、との「参画と協働」、「流域自治」の観点が盛り込まれたことにより、流域委員会の専門委員メンバーを中心に結成された「武庫川づくりと流域連携を進める会（武庫流会）」（2007）等が核となり、流域連携の柱になる両輪の組織として、「武庫川流域圏ネットワーク」（2011）とともに「武庫川市民学会」が2012年5月に設立されました。

### 第4期の活動

武庫川市民学会は、武庫川流域圏の自然現象、社会現象について、市民自らが学習・調査・研究した結果を専門的な見地からも考察し、その科学的な知見を他の市民に伝え、より多くの市民が武庫川を科学的に理解することによって、武庫川の川づくり・まちづくりを推進する場になることを目指しています。市民学会では、具体的な活動として各期の総会に合わせた研究発表会やテーマを選んだセミナーを開催するとともに、市民学会誌「武庫川の科学」を発行しています。また、武庫流会と共同で武庫川流域の環境調査を実施しています。ここでは第4期（2015年10月～2016年9月）の活動内容を紹介します。

第4回研究発表会（15.10.31）では、兵庫県立大学准教授/人博研究員の三橋弘宗氏による特別講演「武庫川におけるアユの生息環境の再生に必要なこと」と5題の一般発表があり、その後、村岡前会長を偲ぶ会が行われました。

第6回セミナー（16.4.16）では、「武庫川の遺産『武庫川峡谷』を紐解く」のテーマで、兵庫県立大学名誉教授/人博名誉研究員の小林文夫氏による基調講演「武庫川流域の地形・地質環境と武庫川峡谷の形成」、県阪神北県民局宝塚度土木事務所の本田豊氏および21世紀の武庫川を考える会の桐藤直人氏による講演「武庫川峡谷の希少種の保全をめざして」、「武庫川溪谷廃線跡トンネル群の保存と観光化」が行われました。また、武庫川峡谷の魅力をテーマにした写真・スケッチ展が併設されました。

村岡会長追悼号となった市民学会誌「武庫川の科学」第5号（15.11.30）では、9名の追悼文のほか、尼崎市庄下川の水質モニタリングに関する研究レポート、武庫川下流部塩水遡上調査に関する調査報告、宮水の研究者、六甲山東麓の地形・地質などに関する寄稿、尼崎市の環境啓発事業の施策紹介などが掲載されました。その他、第5回武庫川流域圏ネットワーク活動報告会（15.12.5）での報告、県阪神北県民局主催阪神北地域見本市（15.11.7）での活動紹介、武庫川流域環境調査（15年11月、16年6月）などを実施しています。

詳細はホームページ（<http://muko-citsoc.jimdo.com/>）をご覧ください。



第4回研究発表会（上），第6回セミナー（中）および写真・スケッチ展（右）  
どちらも神戸女学院大学（西宮市）にて開催